

令和7年度 学校改善の結果（改善方策）

■ 令和7年度 学校改善の結果（改善方策）

【重点目標1：豊かな伝え合いを通して、深く考える子どもの育成（知）】

〔数値目標〕

- 自分の思ったことや考えたことを文章や言葉で表現し、伝え合う場を多様に設定することにより、「自分の思いや考えをすすんで表現する」子どもを90%以上にする。
- 「生活・総合的な学習の時間を通してESD、SDGsにすすんで取り組む」子どもを85%以上にする。
- 豊かな伝え合いを作り出す工夫された授業を行い、「学ぶことが楽しい」子どもを85%以上にする。

〔アンケート結果〕

- 「話し合い、発表し合う機会がある」は95%以上と高い数値を示している。一方で、「自分の考えを表現する」は79.7%と前年より低下している。「ESD・SDGsにすすんで取り組む」については、79%。「学ぶことが楽しい」については、81%である。

◎方策

- (1) 各教科において、「書く→話す→伝え合う→振り返る」の学習過程を意図的に位置付け、表現活動の質を高める。
- (2) 生活科・総合的な学習の時間において、ESDの視点により、3学期末に1年間を通して学んだことの研究発表会を行う。体験的な活動を通して、課題について自分で考えたり、協働的な学習において友達と考えたりすることにより自分の考えをもつことができる。また、高学年では、タブレットのプレゼンテーションソフトを活用して自分の考えを表現することができようにする。
- (3) タブレット端末（ロイロノート等）を活用し、全ての児童が自分の考えを発信できる機会を保障する。
- (4) ノートやワークシートへの記述を重視し、「書いて考える」活動を通して、自分の考えを深められるようにする。

【重点目標2：自己有用感を高め、思いやりのある子どもの育成（徳）】

〔数値目標〕

- 「自分からあいさつの声をかけることができる」子どもを90%以上にする。
- 様々な人と関わることを通して、「相手の気持ちを考えて行動している」子どもを90%以上にする。
- 「学校生活が楽しい」子どもを90%以上にする。
- 「先生に相談できる」子どもを80%以上にする。

〔アンケート結果〕

- 「自分からあいさつの声をかける」は85.0%と前年より低下している。「相手の気持ちを考えて行動している」は90%。「学校生活が楽しい」子どもは88%。「先生に相談できる」子どもは、77%である。

◎方策

- (1) 児童のよさや具体的な行動を価値付け、掲示や学級活動等を通して可視化し、自己有用感を高める。
- (2) 異学年交流（なかよし班活動等）を充実させ、思いやりの行動を体験的に学ぶ機会を設定する。
- (3) あいさつ運動を継続するとともに、場面に応じた適切なあいさつができるよう指導する。
- (4) キャリアパスポート等を活用し、自分の成長や他者との関わりを振り返る機会を充実させる。

【重点目標3：健康な体づくりや体力の向上にすすんで取り組む子どもの育成（体）】

〔数値目標〕

- 「健康な生活をする心を心がけている」（食事・睡眠・生活習慣）、「めあてをもって体育や運動に取り組んでいる」と回答する子どもを85%以上にする。

〔アンケート結果〕

- 「すすんで運動するように心がけている」が72.3%、「健康な生活を意識している」が73.4%である。

○方策

- (1) 晴れた日は外遊びを奨励し、校庭で遊びを工夫し、日常的に体を動かす機会を確保する。
- (2) 短縄・長縄・持久走等の体力向上週間を設定し、継続的に運動に取り組ませる。
- (3) 生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）について、保健だよりや学校保健委員会などを通して家庭と連携した取組を進める。
- (4) 体育の学習記録や振り返りを活用し、児童自身が体力の向上や変容を実感できるようにする。

【令和7年度全体を通しての課題】

「子どもたちの笑顔があふれる学校」～持続可能な社会の創り手を育てる～

ESD（持続可能な社会の創り手を育む教育）の視点を取り入れ、教育課程全体を通して、自分の考えを表現し、主体的に学ぶ児童の育成に取り組んできた。授業における話し合い活動や発表の機会の充実、タブレット端末を活用した学習の工夫により、児童の学習意欲や思考の深まりは高まっている。

一方で、「自分の考えを表現する力」については前年より低下が見られ、学習の過程における表現の質の向上が課題である。また、「将来について考える学習」や「学び舎における中学校との交流」についても低い水準にとどまっており、児童が自分の生き方や将来を主体的に考える機会の充実が求められる。

さらに、健康な体づくりや体力の向上については、依然として十分とは言えず、学校と家庭が連携した継続的な取組が必要である。加えて、学校の重点目標や教育活動について、保護者や地域への発信が十分に伝わっていない状況も見られる。

今後は、表現力の質の向上を図るとともに、キャリア教育や学び舎連携の充実、健康・体力の向上に向けた取組を一層推進していく。また、学校経営方針や教育活動の意図と成果を分かりやすく発信し、保護者・地域と連携した教育活動の充実を図っていく。